

3. まちなみガイドライン

まちなみガイドラインは次のような構成になっています。

3-1 「修景」をはじめる前に

修景をはじめる前に、考えていただきたいことをまとめています。

- (1) まちの将来イメージを共有する
- (2) 平野らしい「まちなみ」について考える
- (3) 「修景」をはじめましょう

3-2 修景ガイドライン

具体的な建物の修景方法を示しています。

- (1) まちなみ・住まいづくりの作法
- (2) 修景基準
 - 伝統的建物など
 - 新しい建物
 - 建築設備・付帯物など

3-1 「修景」をはじめる前に

(1) 「まちの将来イメージを共有する」

「修景」とは、みんなで「まちなみ」をつくることです。

「修景」を行うためには、まちの将来イメージを共有することが大切です。

まちへの思い—— こんな「まち」やったらええやん、平野

1. つながり大切に「まち」

- 昔からの歴史や伝統のつながりを大切に「まち」
- 人と人とのつながりを大切に「まち」
- 建物と建物のつながりを大切に「まち」

2. 住んで快適で、安心して暮らせる「まち」

3. あるいて楽しく、おもしろい「まち」

4. 「ここが、わたしのふるさとや」と人に誇れる、どこか懐かしい「まち」

(2) 「平野らしい「まちなみ」について考える」

平野らしいと感じるもの、それがこのまちの魅力です。

魅力ある「まちなみ」へと願いを込めて、

「平野らしさ」を具体的に表す言葉をまちなみ・住まいづくりの大看板としました。

まちなみ・住まいづくりの大看板

祭りちょうちんが似合うまちなみ

夏祭りの時の平野のまちなみを想像してください。深い軒先に吊るされたちょうちんが並ぶまちなみはとても美しいものです。瓦屋根、深い軒、格子戸、ちょうちんがひとつになって、平野の魅力になっています。平野らしい「まちなみ」について考えるとき、この大看板を思いだしてください。



祭りちょうちん

(3) 「修景」をはじめましょう

建物を修理するとき、新しく建てる時、次の4つの「まちなみ・住まいづくりのものさし」をキーワードに「修景」をはじめましょう。

いままでの建物を大切に磨きかける

平野郷の往時の面影を今に伝えている町家などの建物は、まちの貴重な財産です。伝統のよさを大切にしながら、現代の生活に合わせて磨きをかけていくことで、次の時代に伝わっていきます。



伝統的様式の建物

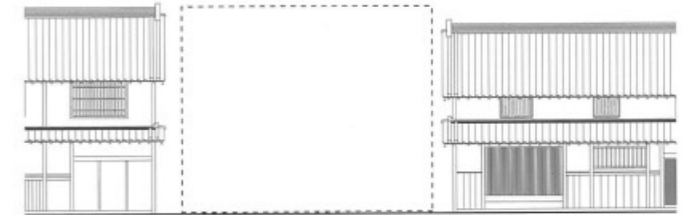
祭りちょうちんが映えるように工夫する

夏祭りの時にちょうちんが並ぶまちなみは、とても美しいものです。みんなで祭りちょうちんが映えるように工夫していくとまちにつながりができます。



これから建てる建物は周囲のまちなみになじませる

新しく建てる時、町家の続く伝統的なまちなみのスケールを損なうことがないように心掛けることで、まちなみが調和します。



平野の財産である昔からの場所や景観を残し活かすように努める

町家などの伝統的な建物の他にも、地藏堂、だんじり小屋、辻などの歴史や文化を伝える場所が豊富にあります。これらの場所や景観を大切にすることで、平野らしいまちなみがきわだちます。



種尻口地藏堂・だんじり小屋



亀乃辻